



第1回 終活相談会レポート 「お墓・お葬式」

令和5年9月10日、釣月寺本堂にて「お墓・お葬式」というテーマで終活相談会を実施し、ご家族を含めて24名の方にご参加いただきました。寺院広報を代行する企業「唯」の代表で、浄土真宗本願寺派僧侶でもある池谷さんに講師を務めていただきました。参加者アンケートでは「檀信徒向けの終活相談会は必要」「参加を続けながらゆっくり終活に取り組みたい」という声をお聞かせいただきました。檀信徒様に日頃から個別でお伺いしている終活相談では、お墓や葬儀についての内容が多いのですが、今回はご自身の終活についてご家族にどう伝えるか、終活相談会でご紹介いただいた相談事例についてレポートします。

お寺が終活の相談相手になる理由

家族間で話しにくい「親の終活」

別のお寺の住職から「うちの檀家にご家族と終活について話している」と聞いたことがあります。それはごく少数だと思います。取材を通して感じたのは「自分の死について家族と話しにくい」と親世代は感じ、子ども世代は「終活について親と話す機会がない」というジレンマを抱えていました。終活の存在自体も社会的には浸透していないと思います。家族間で終活の話題をするのはまだ難しい環境のなか、まずは檀信徒のご家族にお寺の住職が終活の相談相手として存在していることを知ってもらふ必要があると思います。

コロナ禍で檀信徒のご家族が住職と接する機会はこれまで以上に減った傾向にあります。秋山住職の人柄記事を見ると檀信徒のご家族にとって「親が終活相談をする人は誰なのか」がわかると思います。釣月寺の檀信徒様にはぜひご自身の終活について家族と話すきっかけとして、秋山住職の人柄をご家族に伝えてほしいと願います。

ご家族とお寺に行く意味とは

講演では2018年に葬儀をした僧侶が偽物だったことが発覚した事件を取り上げたニュースを紹介しました。その背景には葬儀会社が安い料金で来てくれるネット派遣僧侶を使うことがあり、どこのお寺の所属かもわからない僧侶と名乗る男が偽物のコスプレ僧侶だったという事件でした。滅多にないと思われるかもしれませんが、実際にそのようなことを不安に思われる檀信徒様も取材した中にはいらっしゃいました。いま葬儀会場ではじめて会うお坊さんは信用しにくい時代になったと思います。そのためご家族には、たとえ遠方にお住まいでも菩提寺の話をしてあげてほしいと思います。

ある檀信徒様から「お墓に眠る私の父について、子や孫たちも忘れていないとお墓参りで確認できている」とお聞きしました。もし

自分が亡くなっても忘れないでほしいと残し伝えることができるのが菩提寺の存在です。ぜひお墓参りに来たときに住職とたわいもない話をご家族と一緒にしてほしいと思います。



終活の不安や悩みをみんなで話し合うことができました。

第2回 終活相談会ご案内

令和6年1月20日(土) 14時～

- テーマ「釣月寺の永代供養、樹木葬について」
- 会場：釣月寺・本堂
沼津市馬込164-1
- 講師：秋山俊敬住職
- お申し込み方法：
直接会場までお越しください（予約不要）

秋山住職からのメッセージ



終活相談会後の茶話会では終活についての悩みをみんなで話し合い、不安や悩みが少しずつはっきりしていったと参加者から感想をいただきました。次回は「釣月寺の永代供養、樹木葬について」というテーマで私が講師を務めます。不安なことを少しずつ話し合う機会をこれからも作っていきたいと思います。

ご相談やご質問はお寺までご連絡ください。

臨済宗妙心寺派 釣月寺 tel:055-931-3378